

多彩な車両と高品質な輸送サービスを武器に
「敬客愛人」で経営の持続性を一層高める

千南商事(株) (石橋一寛代表取締役 社長) は、鋼材や化学品、一般雑貨などの輸送を行う運輸事業部を中心に、アパレル OEM 事業も手がける運送会社である。平成 31 年に社長に就任した石橋社長は、同社の屋台骨となっている運送事業の強化に全力で取り組み、同業他社との差別化を成し遂げた。今後は同社独自の「強み」を武器に、輸送の最前線で奮闘するドライバー達とともに、さらなる飛躍を目指していく。



地元プロバスケットチーム「アルティ―リ千葉」と同社のロゴマークが燦然と輝くラッピングトラックの前に立つ石橋社長

■教育を強化しプロドライバーを育成
目指すは「ドライバーファースト」な企業

千南商事(株)は昭和 22 年、水産卸売業を営む千南水産(有)として設立された(昭和 29 年に現社名に改称)。京葉工業地域の整備が進むにつれて、昭和 30 年代中頃から鉄鋼の輸送を開始。また、化学工場で生産される化学品のほか、一般雑貨などの輸送も行っている。

同社における最大の特長は、重量物・鉄鋼品輸送用トレーラーや大型やタンクローリー、平ボディ車、ウイング車など、保有している車両の車種が幅広く、様々な輸送に対応可能なことである。

多彩な車種に対応できるドライバーを育成していくために、同社では安全指導に力を入れている。特に、トレーラーに乗務するドライバーに関しては、「誰にも負けないプロドライバーに育て上げる」ために、徹底指導を行っている。

同社では、業界未経験で入社し、スキルアップを重ねて、現在ではトレーラーに乗務しているドライバーが多いという。まず、大型免許などの取得にあたっては、同社では助成制度を設けている。小型車から中型車、大型車、トレーラーへと乗務車両が変わる際には、その都度指導者による OJT 教育を実施する。指導者の隣で作業手順を見学したり、作業の手伝いをしたりする中で、ドライバーとしての仕事の進め方を覚えていく。また、添乗時間を十分に確保し、安全性の高い運転操作の習熟に努めている。指導期間内は、ドライバーと指導者に毎日「添乗教育シート」を記入させ、管理者がドライバーの習熟状況などを日々見極める。その後、管理者による見極めを経てドライバーはひとり立ちを果たす。

一方、ドライバーに対する安全教育としては、毎月安全講習会を実施。自社の安全管理責任者による教育のほか、外部の専門パートナーを招いての指導も行う。専門パートナーによる指導では、少人数制の講座を複数回実施し、ドライバー全員が受講できるようにしている。

ハード面の対策では、ドライブレコーダーを全車に搭載。時には抜き打ちで、ドラレコで取得した動画データを管理者が確認し、ヒヤリハット事象が見られた際には安全講習会などを通じて全員

のドライバーに情報共有を行い、事故防止意識高揚に繋げている。

また、トレーラーには、タイヤの空気圧を管理できるセンサーを導入。測定値は営業所で確認することができ、異常値が測定された場合にはドライバーに連絡して入庫させるようにし、タイヤが原因となる運行トラブル防止を図っている。

「特に、トレーラーに乗務するドライバーには、大型牽引車両を運転するプロフェッショナルとして、高い安全意識と責任感が求められます。当社では、ドライバーの安全指導徹底を通じて、事故防止を図っていきたくと考えています」(石橋社長)

一方で、同社では労働災害防止にも力を注いでいる。まず、鋼材を輸送するトレーラーには転落防止柵を設置しているほか、タンクローリーについてはタンク上部での作業時の墜落防止を図るために、作業場所に安全帯取付設備を配置した。

さて、同社のドライバーは、荷主先での積み卸し待ちはもともと長くはなかったが、「物流の 2024 年問題」に対する荷主企業の認識が深まっていることを受けて、特に大手の荷主企業を中心にドライバーの拘束時間削減への協力体制ができています。また、運賃値上げ交渉についても総じて受け入れてもらえているという。こうした状況を背景に、現在同社では従業員への福利厚生の充実に取り組んでいる。

まず、休日に関しては、取引先である荷主企業の営業スケジュールに合わせ、土曜・日曜・祝日・年末年始は休日となっているため、年間休日数が多くなっている。また、職場つみたて NISA 制度や団体医療保険制度など、ドライバーの生活支援に資する制度も充実させている。

さらに、会社が不動産会社と契約して単身者用のアパートを提供しており、現在は従業員 10 人ほどが暮らしているという。「当社では全国に向けてドライバー募集を行っており、遠方に住



石橋 一寛
代表取締役 社長



同社では鋼材用トレーラーのほか、大型タンクローリーやウィング車、平ボディ車など様々な車種を保有している



外部の専門パートナーによる安全教育などを通じ、事故防止意識の高いプロドライバーの育成に取り組む



石橋社長は「敬客愛人」という言葉を大切にしながら、従業員とともに次世代への飛躍を目指している

むドライバーにとっては単身用の住居があることが入社への大きな決め手になっています。私は、当社の求人募集に応募してきたドライバーとは、どんなに遠方からの応募であっても直接面接するようにしており、かつては秋田空港で面接を行ったこともありました。社長自らが遠方まで出向き、面接を行うことで、求職者に熱意を伝えることができるのです」(同)

石橋社長は、大学卒業後大手フォワーダーに入社。成田空港で輸入品の通関実務を手がけたほか、都内で営業業務などにあたっていた。先代社長で実の父親でもある石橋茂則氏とは仲が良く、大手フォワーダーに入社してから10年ほど経った平成19年、茂則氏からの誘いもあって、副部長として同社に入社した。当時は、元請運送会社からの下請けの仕事が多く、車両台数は70台程度であった。

石橋社長が入社した翌年、同社をリーマンショックという荒波が襲った。この頃同社では運送事業のほか、1990年から参画していた中国でのアパレルOEM事業についてもリーマンショックによって、経営面で大きな痛手を受けた。こうした状況下で同社の経営を維持していくため、屋台骨となる運送事業の強化を模索。「元請運送会社に頼るだけではなく、自社独自の営業活動を実施しなければ将来が見通せなくなる」と考え、様々な企業からの仕事を受注するために営業活動に注力したほか、保有車両の車種を増やし、様々な輸送に対応できる体制を整えた。平成23年には東日本大震災が発生し、さらに令和2年には新型コロナウイルス感染症に伴う世界的な景気停滞の影響を受けるなど順風満帆な道ではなかったものの、近年では売上高が着実に増加し、車両台数も現在の120台体制まで拡大している。

石橋社長は平成31年、茂則氏が70歳を迎えたのを機に、43歳で社長の座を引き継いだ(茂則氏は代表取締役会長に就任)。

石橋社長が経営を行う上で大切にしているのは、「この会社をドライバーファーストな会社にしていく」ことである。「社長就任以前から10年以上にわたり、ドライバーの採用面接は自分が行ってきました。大きな希望とともに当社に入社してきたドライバー

たちに、当社で長く働いてもらえるような職場環境整備を進めていくことが、当社の経営を持続可能なものとしていくためには最も重要ではないかと考えています。一般的に、社長は社内でも最も権限を持っており、社外の人から持ち上げられることも少なくありません。しかし、私はドライバーが稼いできてくれる運賃収入における役員報酬というコストであり、「ドライバーに食わせてもらっているに過ぎない」のです。「ドライバーに食わせてもらっているに過ぎない」のです。コストとなっている私の使命はこの会社のドライバーが誇りをもって稼げる環境にしていこうとだと思っています。」(同)

また、石橋社長は現在、千葉県トラック協会の重量鉄鋼部会長として重責を担っている。重量鉄鋼部会では、全日本トラック協会の重量部会や鉄鋼部会なども連携しながら、特殊車両通行許可における通行時間帯条件の緩和や通行許可範囲(寸法・重量・車種)の可能な限りの最大化、特殊車両通行許可手続きの簡素化・短期化などの実現に向けて関係省庁への働きかけを強化している。

「重量鉄鋼部会には、当社のような鉄鋼輸送を行う事業者と、重量物輸送を行う事業者が参加しており、両方ともに手がけている事業者もいらっしゃいます。鉄鋼輸送と重量物輸送ではそれぞれ取り組むべき課題を抱えていますが、部会ではお互いの課題解決に向けた方策を言い合える場にしていきたいと考えています。会員事業者の皆様には、輸送効率向上の実現に向けて、是非問題提起していただきたいと考えています」(同)

さて、同社の社内には、西郷隆盛の座右の銘である「敬天愛人」ならぬ、「敬客愛人」という言葉が掲げられている。「敬天愛人」は「天を敬い人を愛する」という意味であるが、その言葉になぞらえた、「取引先を敬い従業員を愛する」という意味の「敬客愛人」という言葉を、石橋社長は大事にしているという。運送会社として取引先を尊重することはもちろんのこと、日々の精励を通じて会社の経営を持続可能なものにしていく当社の従業員を大切にしていこうとの重要性を謳ったこの言葉を心に秘めながら、石橋社長は従業員とともに、同社のさらなる飛躍を目指している。

ホットにゆーす

■地元のプロバスケットチームに協賛 スポーツを通じた地域活性化に挑む

同社では、千葉市をホームタウンとするBリーグのプロバスケットボールクラブ「アルティエーリ千葉」のオフィシャルパートナーとして、スポーツを通じた地域活性化にも取り組んでいる。

同社では同チームのラッピングトラックを走らせているほか、従業員専用メッセージアプリでは同チームの試合のチケットの予約も可能となっており、チームを応援するために足繁く観戦に通う従業員も多いという。



試合前に円陣を組む「アルティエーリ千葉」の選手たち。チームを応援するために足繁く観戦に通う同社の従業員も多い

企業プロフィール

千南商事 株式会社

代表取締役 社長 石橋 一寛
所在地 千葉県千葉市中央区浜野町 684
従業員 110人 (うちドライバー 100人)
台数 120台